新図書館等複合施設の活用をみんなで考えるワークショップ（全５回）

＜第５回＞「ワークショップまとめ」 実施記録

1 開催日時：2025 年 1 月 18 日（土） 14：00～16：00

2 開催場所：妙高市役所 1 階 コラボホール

3 参加者：32 名

4 スケジュール

時間	内容
14：00 ～ 14：35	「（仮称）新図書館等複合施設活用アクションプラン（案）」の説明
14：35 ～ 16：00	「（仮称）新図書館等複合施設活用アクションプラン（案）」について協議

5 ワークショップの内容

（1）「（仮称）新図書館等複合施設活用アクションプラン（案）」の説明

（未来の図書館研究所 所長 戸田あきら）

→資料①参照

■このアクションプランは行政がつくる計画ではなく、これまで 4 回にわたって開催してきたワークショップにおいて、参加者同士で話し合った企画やアイディア、意見などをまとめたもの。すなわち、私たちのアクションプランという性格のものである。

■第 1 章「アクションプランの位置づけ・施設概要」（1～10 ページ）は、アクションプランの前提となる「新図書館等複合施設整備計画」など、整備計画時の考え方や施設の管理運営に関する市の計画等が書かれており、これらの土台の上に施設活用に関するアクションプランが位置づけられることを示している。

■第 2 章「私たちの施設活用計画（アクションプラン）」（11～20 ページ）がアクションプランの中核になる。ワークショップで話し合った具体駅な取組みや推進に向けた考え方等を記載している。

■第 3 章「わたしたちの提言」（21～22 ページ）は、ワークショップとアクションプランを踏まえて、私たちの施設活用に関する想いを宣言しようというものである。現在、記載されている内容はあくまで参考例なので、本日、皆さんから内容を考えていただき、アクションプラン（案）に追加してみてはどうかと考えている。

（2）「（仮称）新図書館等複合施設活用アクションプラン（案）」について協議

■「（仮称）新図書館等複合施設活用アクションプラン（案）」については、第 3 章「わたしたちの提言」（21～22 ページ）を削除し、基本的な方向性と内容は了承とし、今後 2 月上旬まで本案に対する意見等を募集する期間を設け、必要な修正・調整を行ったうえで 3 月末に公表する。

議論の主な内容は以下のとおり

※発言冒頭に、（市）とあるのは妙高市役所、（未）は未来の図書館研究所、（フ）はワークショップのファシリテーター（図書館パートナーズ）の発言

＜ワークショップの進め方・ワークショップ後の意見募集の方法＞

■本日のワークショップの場だけでは、アクションプラン（案）の詳細まで確認することはできない。参加者が内容をよく見てから意見を出せるようにしてほしい。

⇒（市）今後も 2 月上旬まで一定期間は、ホームページや LINE グループなどで、本案に対する意見を募集する。

■アクションプランはワークショップで決めるのか。それとも我々は提案されたものに対して意見や質問を述べ、最終的には市がアクションプランをつくるということか。

⇒（市）本案は、行政がつくる計画ではなく、今まで 4 回にわたって開催してきたワークショップにおいて、参加者同士で話し合った企画やアイディア、意見などをまとめたもの。内容的に間違っていたり、方向性が違っているということであれば指摘してほしい。

＜アクションプラン（案）の内容についての質問・疑問＞

■3 ページの（仮称）新図書館等複合施設管理運営計画とアクションプランはどんな関係か。　2 つの計画の真ん中にある「⇔」の意味合いは？

⇒（市）（仮称）新図書館等複合施設管理計画は、行政及び施設運営側の管理運営上の基本的な考え方を示す市の計画であるのに対し、アクションプランはワークショップを通じて、参加者同士で話し合った企画やアイディア、意見などをまとめた施設活用の計画である。これらが相互に連携しながら施設をつくり上げていくという関係を意味している。

■市の総合計画にマッチしているのか。

⇒（市）令和 7 年度から始まる「第 4 次妙高市総合計画」では、『みんなでつくる“自分の好きを選べるまち”妙高』という将来像を目指し、皆さんのやりたいこと、興味があることを実現していこうという基本的な考え方を示しており、このアクションプランの考え方と共通している。

また、総合計画の「誰もが気軽に学べる環境づくり」、「多様な学びを支える拠点施設の運営」の施策では、新図書館等複合施設の活用を掲げており、アクションプランが、これに寄与するものとなる。

＜アクションプラン（案）の内容・まとめ方についての意見＞

■12 ページの「暮らしやすさの向上」などの表現は、もっとワクワクするような、ポジティブな表現のほうがいい。アンケートなどの高校生、若者の意見を反映し、少し未来が明るくなるような表現があるといい。また、「中心拠点」という表現はあまり強調しないようがよいのではないか。

■12 ページの「目指す姿」は、もっと見やすく短い文章がよい。小学生・中学生も見やすくなるようにイラストが入れたほうがよい。

⇒（未）見やすくなるように工夫したい。

■市外からの利用者もいるため、妙高市民だけを対象とするイメージになる「市民」という表現は、あまり前面に出さないほうがよいのではないか。

⇒（未）この地域、施設を支えていく主体は「市民」であるため、通勤、通学者なども含めて利用者や

運営に関わる方を全体として「市民」と表現したものであるが、記述内容の趣旨によって表現を工夫するよう検討する。

■新施設のオープンは令和 7 年度の秋、アウトプットが出るのは令和 8 年度になるので、アクションプランにはビジョンの枠だけつくっておいて、後で好きなことを入れていくようにしたらいいのではないか。これからも、どんなことがやりたいかを、みんなで話し合う。そうすれば誰でも入れるし、ここにいる皆さんも入れる。

⇒（未）今年度ワークショップで話し合ってきたことを、一度、アクションプランとしてまとめるが、これからも、市民をはじめ、新たな参加者なども加えながら対話を継続し、運営後の中で見えてくる課題や新たなニーズ、可能性やアイディアなども取り入れ、今後の議論の中でどんどん変えていけるアクションプランとなっている。

■アクションプランはいつ出るか。

⇒（市）アクションプランの体裁や細かい部分の修正はあるが、大きな方向性として、今日皆さんから了承いただければ 3 月末には公表したい。

＜アクションプラン（案） 第 3 章「わたしたちの提言」についての意見＞

■22 ページの「わたしたちの提言」に違和感がある。この「わたしたち」という主語が誰なのか。市民全体の意見が反映できるのか。

⇒（市）「わたしたちの提言」の主語は、アクションプランづくりに携わっていただいたワークショップの参加者であり、皆さんの想いや願いを、市民をはじめ、これから施設を利用する多くの人たちへアピールしようという趣旨である。

■今日、この提言を決めらないとならないか。大事なものだし、また後日、考えてきてもいいのではないか。

⇒（フ）今までのワークショップは、施設活用について、みんなで考え、アイディアや意見を話し合うワークショップだった。「わたしたちの提言」の内容は、実際に行動する人たち、施設のサポーターとしてやりたいというに集まってもらい、考えたほうがいいのではないか。

⇒（市）皆さんのご意見を踏まえて、第 3 章「私たちの提言」についてはアクションプランから外し、将来的にアクションプランを実行する皆さんから、「わたしたちの提言」のようなご意見が出てくれば、その時点で検討することにしたい。

＜次年度以降の対話・取組みの進め方＞

■（未）市民等の主体的な組織づくりについて、ワークショップのファシリテーターである「図書館パートナーズ」から事例を紹介してほしい。

⇒（フ）「墨田区ひきふね図書館パートナーズ」という活動を 10 年くらいやっている。新図書館ということで区民が集めて立ち上げたが、アクションプランなどはなく、手探り状態で始めた。やりたいことをやれるときに、やれる人がやるのがボランティア。楽しくないこと、やりたくないことはやらなくていい。企画に対する承認・進め方は全員の合意をもって決めるというルールで活動している。特に、執行部もなく、フラットな状態で全体合意の承認を受けて、館長の承認のもと、イベント、事業をやっている。どうやって楽しく活動できるかという立ち位置で考えてもらうといい。

■アクションプラン（案）には「共創」、「協働」と書かれているが、具体的にどんなふうにやるのか。

■アクションプランの推進に向けて対話の場づくりが重要だが、行政の会議のような場だと、思っていることがあってもなかなか発言しづらい。もっとラフな感じで飲食しながらやれば、いいアイディアが拾える。

■話し合う人数が多すぎると意見がまとまらなくなるので、今後はアクションプランのテーマや取組毎に、少人数で進めたほうがよい。

■MYO 高校部で集まって、内容を限定せずに、そこでいろいろ考えてもらうのもあるのではないか。

⇒（市）今後、アクションプランについては、個々の取組について、「いいね。やってみよう。」という思いを持って行動していただける人たちが集まって、実施に向け役割分担やスケジュールなど、具体的に話し合いながら進めていくことになる。行政が参加者を募集する場だけなく、市民等が主体となって仲間を集めて動き出す活動もあると思う。

⇒（市）MYO 高校部など若者からも参加していただき、自由な発想のもと、いろいろなことに挑戦していける楽しい場になることを期待している。

＜施設・運営に関する質問＞

■新施設のキャパシティについて、現在の図書館と比べてどのくらい広いのか。また、コモンスペースはどのくらいの人数が入れるか。

⇒（市）今の図書館のだいたい 2 倍くらいの広さ。コモンスペースは、2 階の中央部分にあり、机の配置は自由に動かせるという考え方。座席数は 30 席くらい。

■個人の学習スペースがあるところにコモンスペースがある。コモンスペースでは会話があるので、学習している人から苦情は出ないのか。調整はどんな感じになるか。また、貸室は予約制で抽選になるのか。

⇒（市）2 階のコモンスペースは、基本的にいろんな方々が課題解決のためにいろいろ意見を出し合うような使い方もできる。従来のような静まりかえった図書館ではないが、3 階には、静かに本を読めるような空間もつくっている。他にも、1 階には多目的ルーム、交流スペース、2 階には市民活動室もある。それぞれの来館の目的に応じて自分が使いやすい空間を選ぶことができる。

＜アクションプラン（案）の基本的な方向性と内容の確認＞

■（未）アクションプラン（案）については、本日のご意見を踏まえて、第 3 章「私たちの提言」の部分は削除するが、基本的な方向性は、本案の大枠で取りまとめてよいか確認いただきたい。

⇒もう少しアクションプラン（案）の細部をよく読んでみたい。

⇒実現性を高めるためには、市民の側だけに共創を求めるのではなく、行政の中でもどう市民協働・共創を高められるかも重要である。

⇒（市）このアクションプラン（案）は、これまでのワークショップの中で、参加者同士が話し合った企画やアイディア、意見などをまとめた、私たちのアクションプランという性格のものである。本日は、基本的な方向性を確認いただき、細部については、これから 2 月上旬まで本案に対する意見等を募集する期間を設けて、必要な修正・調整をさせていただきたい。また、行政内部の課題、連携については指摘のとおり、関係機関・部署と協力して進めていきたい。

⇒施設活用について、誰でも参加できるワークショップを繰り返し実施したことは、妙高市ではあまり例がないことであり、評価したい。18～20 ページまでの具体的なことは取組例として書かれている。これはあくまで参考。むしろその上にある事業の方向性のほうが大事。方向性としては了とし、取組の実施に向けた細部は、実際に活動に参画する人たちを募集して、話し合いを継続し進めていけはではないか。

■（未）それでは皆さんのご意見をまとめたい。アクションプラン（案）の基本的な方向性と内容については、了承ということでご異議はないか。

⇒《意義の発言はなし》

■（未）ご異議がないようなので、アクションプラン（案）の基本的な方向性と内容については、了承が得られたものと確認し、細部については 2 月上旬まで意見等を募集する期間を設けて、必要な修正・調整を行った後、3 月末には公表することで進めていく。

⇒（市）本日、方向性を示していただいたのは非常に大きなこと。今後も、市民等と対話を重ね、協力しあって進めていく必要がある。今年秋に新図書館等複合施設がオープンするので、その前段から事業化に向けて、いろんな形で行政と関係者の皆さんと対話し、働きかけながら事業推進に努めたい。引き続き、皆さんのご支援とご協力をお願いしたい。

（閉会）

第 5 回ワークショップの様子

▲アクションプラン案の説明

▲意見交換の様子